

免疫力を低下させたドロドロ血液や内臓の衰えなど歯周病体质を改善する「漢方治療」が話題

大阪歯科大学教授
王 宝禮

口腔を臓器ととりえ 内科的治療を行う

歯周病は、歯や歯グキだけの問題と考えられがちですが、実際は全身の健康状態と深くかかわっています。歯周病の直接の原因は歯垢（プラーグ）です。しかし、年齢や体质のほかにストレス・食生活・栄養状態といつた本人を取り巻くさまざまな環境によつて免疫（病気から体を守るしくみ）が衰えた場合にも歯周病は発症するのです。

通常、歯科では歯磨きの指導や歯石の除去など、外科的な治療が中心に行われますが、歯周病の進行を防ぐには、患者さんの免疫力を高める、いわゆる内科的な治療が必要になつてくる場合もあります。

近年ではドライマウス（口腔乾燥症）や舌痛症、味覚障害、口内炎といった口腔内不定愁訴（原因がはつきりわからない口の中の不快症状）を訴える人が増えています。従来の外科的な歯科治療だけでは対応しきれていなければ実情です。

そのような社会状況から、口腔内科学を求める歯科医師の声が多くなり、日本口腔内科学研究会が発足されました。

近年、歯科医院でも徐々に普及している口腔内科的治療では、口腔（口の中）を一つの臓器としてとらえており、口腔疾患に対して歯科医が内科医や耳鼻科医などと連携しながら検査・診断・投薬を行っています。

歯周病の人に多いのは、東洋医学的には瘀血といわれる血流の滞つた状態（いわゆるドロドロ血液）で、体のすみずみに十分な酸素や栄養が行きわたらないくなつた結果、免疫力が低下していると考えられます。

また、暴飲暴食による胃の衰えや、ストレスから生じる肝臓

実は、歯周病も口腔という臓器の病気だと考えれば、より効果的な治療ができます。

例としては、まず歯磨きの指導や歯石除去をしてから、治りの悪い歯周病（治療抵抗性歯周炎）に西洋医学と東洋医学を駆使して、抗菌薬物療法や漢方治療を行います。そして、漢方治療では、患者さんの体质や症状を見極めたうえで最適な漢方薬を処方し、全身の健康状態を緩やかに整えていくのです。

なお、西洋医学で使う薬は特定の病気の原因だけを直接的に抑えようとするのに対しても、漢方薬は全身の不調を正しながら、その不調が引き起こしている病気や症状を回復に導いていくという特徴があります。

全身の血流の滞りは舌裏に現れやすい



※王宝禮先生の著書に「今日からあなたも口腔漢方医」(医歯薬出版)があります。

生薬を煎じて飲む漢方治療は

歯科医が続々採用し、難治の歯

周病でも治療効果を上げている

症状や体质、生活状態から総合的に判断する

従来の歯周病治療は、直接の原因である歯垢（プラーク）や歯石を除去することに終始していました。

確かに、歯周病は細菌の感染と繁殖によって起こるため、細菌の巣である歯垢や歯石を除去することが不可欠です。しか

し、歯垢や歯石を取り除いてもついに歯磨きをしても歯周病が治らず、歯を抜かざるを得ない場合があるのも事実です。

そこで、このような治りの悪い歯周病には漢方薬を活用した治療が効果的で、従来の局所治療では回復が困難だったケースでも治癒する人が少なくありません。歯周病の症状を東洋医学的な立場から見て、私は免疫低下型と炎症型に分類しました。

● 免疫低下型：歯グキの炎症は少ないものの、わずかな出血やウミが続き、歯グキの退縮・歯の動搖（グラつき）・歯槽骨の吸収も認められて、免疫（病気から体を守るしくみ）の低下が原因と考えられるタイプ。

● 炎症型：歯グキの変色・腫脹・出血・ウミなどの炎症状況が明らかに認められるタイプ。

漢方治療では、こうした歯周病のタイプのほかに、細菌性因子・宿主因子・環境因子といつ

た要素も総合的に考慮して漢方薬を処方します。

● 細菌性因子：歯周病菌があり、その病原性が強い。

● 宿主因子：生体防御機構（免疫）が弱い、遺伝的要素を持っている、全身疾患がある、高齢、かみ合わせの異常がある。

● 環境因子：喫煙している、ストレスがある、食生活や栄養状態が悪い、薬物を使っている。

これらの要素を組み合わせれば、いくどおりのタイプに分類できます。そのため、漢方治療では、一人ひとりの体质に合った漢方薬を処方することが大切になってくるのです。

再発をくり返す難治型の歯周病に効果を発揮

おう ほうれい
王 宝禮



漢方治療では主に煎じ薬が使われている

歯周病で処方される漢方薬の例

漢方治療を希望
(安心感、副作用の心配)

比較的体力
がある人



体力が中等度の人



体力低下・
比較的虚弱
な人



処方例

大柴胡湯
黄連解毒湯

処方例

温清飲
排膿散及湯

処方例

補中益氣湯

漢方医学では、数千年にわたって確立した理論体系をもとに診察や治療を行います。その中に「証」という診断基準があり、自覚症状に加えて体格・体质・性格など患者さんの特徴を総合的に判断して「証」を判断し、漢方薬を処方するのです。

私が会長を務めている日本口腔内科学研究会には、全国で数百に上る歯科医院が入会し、こうした漢方医学にもとづく診断と漢方治療を行っています。歯周病の改善例も数多く報告されているので、その具体例をいくつか紹介しましょう。

まず、六十代の女性の例ですが、その女性は以前に何度も歯周病の治療と再発をくり返していました。初診時には、歯グキにはれや出血があり、歯も全体的に動搖が見られたそうです。そこで、歯石の除去などの基本治療を行つたうえで、「証」を判断し、漢方薬の補中益氣湯を処方しました。

また、四十代の男性は奥歯の歯グキが急性炎症を起こし、上下の歯をかみしめると痛みが出ていました（咬合痛といいます）。

最初は、歯石除去などの治療を行つたうえで抗菌薬を投与する予定でしたが、本人が抗菌薬を希望しなかつたので漢方治療に変更し、「証」による診断から排膿散及湯という漢方薬を処方。その結果、奥歯のはれは三日後に引き、一週間で咬合痛も

症状や体質などを総合的に診察して漢方治療を行う

ドライマウス・舌痛症 味覚異常などにも有効

症例のように、漢方治療による歯周病の改善効果は、一、二週間後から現れてきます。しかし、三週間から一ヶ月たつても変化がない場合は、その時点でも「証」を再検討し、漢方薬を変更します。漢方薬には西洋医学で使う薬のように速効性はないものの、二ヶ月ほど続ければ、

すると、一週間で歯グキの出血が軽減し、二ヵ月後には歯グキのはれも引きました。現在もさらに口内炎も起ころりにくくなつたといいます。

私が会長を務めている日本口腔内科学研究会には、全国で数百に上る歯科医院が入会し、こうした漢方医学にもとづく診断と漢方治療を行っています。歯周病の改善例も数多く報告されているので、その具体例をいくつか紹介しましょう。

なお、この二人の患者さんが使つた漢方薬は、どちらも煎じ薬です。漢方薬には、生薬をじつくり煮出して服用する煎じ薬と、エキス（抽出物）を乾燥させた粉末の二種類があります。

粉末の漢方薬は手軽に服用できるという長所があるものの、薬効成分の多い煎じ薬のほうが効能に優れていることは科学的にも証明されています。煎じ薬は一日二、三回に分けて、食前（三〇分前が目安）か食間の空腹時に飲むのが一般的です。

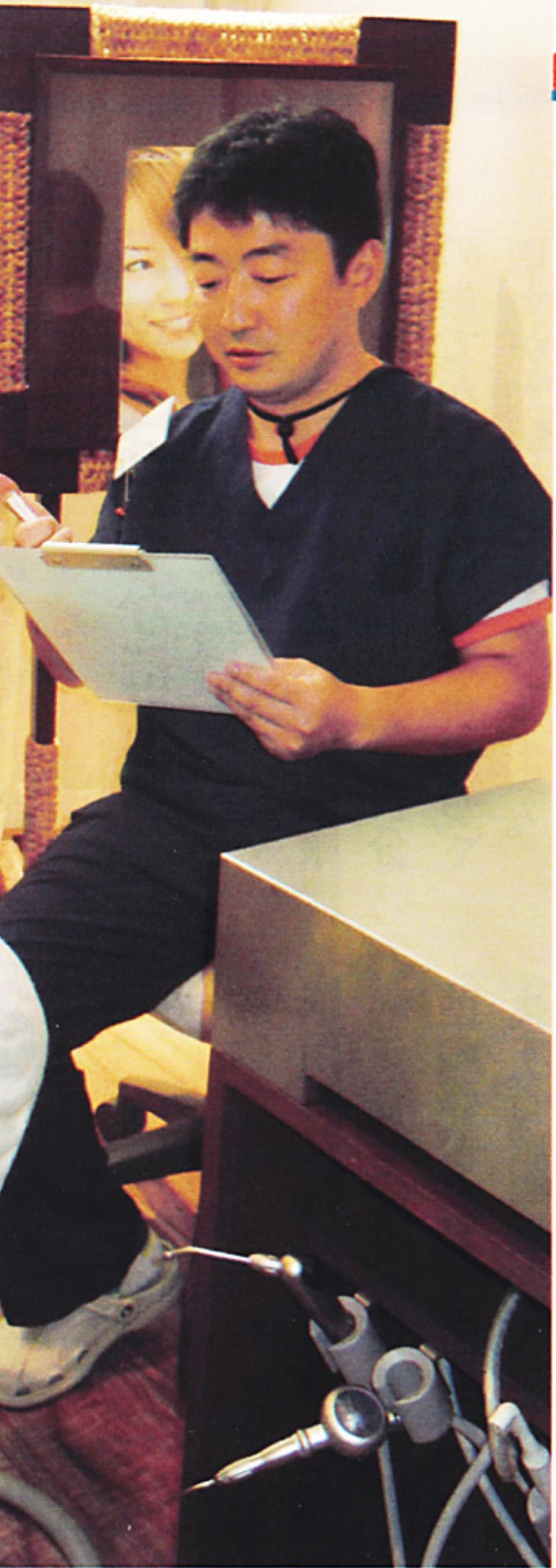
粉末の漢方薬は手軽に服用できるという長所があるものの、薬効成分の多い煎じ薬のほうが効能に優れていることは科学的にも証明されています。煎じ薬は一日二、三回に分けて、食前（三〇分前が目安）か食間の空腹時に飲むのが一般的です。

なお、漢方薬といえども副作用が皆無とはいえません。しかし、診察で「証」をしつかりと行う歯科医のもとで治療を受けねば、副作用が起こる恐れはほとんどないでしょう。

歯周病をはじめドライマウス（口腔乾燥症）・舌痛症・味覚異常・頸関節症・口臭・口内炎などに悩み、漢方治療を希望する場合は、日本口腔内科学研究会のホームページに歯科医院が掲載されているので参考にしてください。



煎じ薬のとり方について事前に入念な説明が行われる



症状や体質などを総合的に診察して漢方治療を行う



症状や体質などを総合的に診察して漢方治療を行う